

350 後下壁梗塞におけるTc-99mピロリン酸心筋シンチグラフィの有用性の検討

南地克美, 紀田 利, 藤野基博, 鋺 寛之,
山田重信, 吉田 浩 (姫路循環器病センター)

急性期 Tc-99mピロリン酸 (PYP) 心筋シンチを施行した 104 例の後下壁梗塞にて右室梗塞 (RVI) 合併の診断、罹患冠動脈の鑑別における有用性を検討した。Parkey 分類 grade 2 以上で discrete な集積を呈した陽性例は全体で 68.3 % であった。RVI 診断に関しては RCA 病変 59 例中右室 PYP 集積陽性例は 35.6 % であったが、血行動態上 RVI 合併と診断されたにもかかわらず右室 PYP 集積陰性例が 11 例、18.6 % に認められた。しかし左室への PYP 集積陽性の 40 例のみに限ると右室の PYP 集積陽性率は 52.5 % と高率であった。一方 PYP 集積陽性例での RCA 病変と CX 病変の鑑別は、(1) 前面像での posterior septum への集積、(2) anterolateral への集積、及び (3) 左前斜位での右室への集積の 3 点より検討すると、(1) 及び (2) の RCA 病変診断の sensitivity はそれぞれ 100 %、51.2 % で specificity は 85.7 %、100 % であった。また (3) の CX 病変診断の sensitivity は 90.5 %、specificity は 92.5 % であった。本法は有意集積例のみに限れば RVI 合併、罹患冠動脈診断に有用と考えられた。

351 Tc-99mPYP心筋シンチグラフィの陽性描出像における摂取度、広がり意義-Tl-201心筋シンチグラフィとの比較-

林田孝平, 西村恒彦, 植原敏勇, 小林 満,
下永田剛 (国循セン, 放)
斉藤宗靖, 住吉徹哉 (同, 内)

発症後 3-6 日以内に施行した Tc-99mPYP 心筋シンチグラフィ (PYP スキャン) にて陽性描出を認めた急性心筋梗塞 32 例で摂取度、広がり意義について検討した。PYP スキャンの摂取度 (Parkey 分類) と陽性像の大きさを慢性期に施行した Tl-201 心筋シンチグラフィと比較した。摂取度 Parkey + 2 (n = 10) で灌流欠損 4 例、低下 2 例、正常 4 例、Parkey + 3 (n = 12) で灌流欠損 7 例、低下 4 例、正常 1 例、Parkey + 4 (n = 10) で灌流欠損 9 例、低下 1 例であった。摂取度が低いほど Tl スキャンでの心筋灌流改善がみられた。心筋梗塞の広がりでは、23 例は PYP スキャン > Tl スキャン、9 例は PYP スキャン = Tl スキャンであった。この 9 例のうち 5 例は心内膜下梗塞、2 例は小梗塞であり、心筋の血流の改善が示された。PYP スキャンと Tl スキャンを併用することにより梗塞巣の広がりのみならず進展程度の判定に有用であった。

352 99mTc-PYPシンチグラフィによる梗塞サイズと左室機能の検討

川村陽一 (日本鋼管病院 内科)
昼間隆弘, 松枝由美, 増岡忠道 (同 RI)

急性心筋梗塞の発作後平均 3.5 日に 99mTc-PYP シンチグラフィを施行し、4 方向のシンチグラムのうち集積面積が最大となるものより梗塞サイズを算出した。一方、スライス巾 8 mm にて施行した心 CT 像より CT 上の梗塞サイズを算出した。前壁梗塞において、PYP シンチより求めた梗塞サイズは、CT より求めた梗塞サイズと良好な正の相関を示した。

また、心電図同期心ブールシンチグラフィを施行して左室の収縮期指標 (EF, 1/3 ERmean) および拡張期指標 (1/3 FF, 1/3 FRmax, FRmax 等) と、PYP シンチより求めた梗塞サイズとの関連につき検討した。PYP シンチより求めた梗塞サイズは EF と負の相関を示した。PYP による梗塞サイズを大小 2 群に分けて拡張機能障害につき検討した。梗塞サイズの大きな群における 1/3 FF, 1/3 FRmax, FRmax は、梗塞サイズの小さな群の値に比して有意に低下がみられた。

353 Tc-99m-PYP心筋SPECTによる心筋梗塞量の測定-Tl-201欠損量, CPK, LVEFとの対比-

望月輝一, 外山貴士
(愛媛県立今治病院 放)
藤原康司 (同 内)
村瀬研也, 河村正, 飯尾篤, 浜本研
(愛媛大 放)

Tc-99m ピロリン酸心筋 SPECT を用いて梗塞量を測定し、Tl-201 心筋 SPECT における欠損量と対比した。対象は初回発作の AMI 14 例 (男: 11, 女: 3) で、全例約 1 カ月後に Tl-201 心筋 SPECT 及び心ブール法を施行した。SPECT による % Tl defect との相関は、① 70 % cut off level 体軸横断像で $r = 0.758$ 、② 70 % cut off level 短軸像で $r = 0.797$ 、③ 対 % PYP uptake で $r = 0.953$ であった。

梗塞量とピーク CPK, Σ CPK, LVEF ととも比較検討した結果、PYP 梗塞量と Tl 欠損量とはよく相関したが、CPK や LVEF とは良い相関は得られなかった。